

知覧卒業合宿 社会へ飛び立つ直前に来たかった場所。



富屋旅館で行われた
中條学長の初講話

2期生最後の講義は、
特攻の隊員さんたちが
最後の夜を過ごした
この富屋旅館の部屋で。



↑女優たぬきさんによる1人芝居。



↑中條学長の重みのある一言二言。



卒業直前、2期生たちは学長と一緒に、日本人にとって特別な地に、向かった・・・。

大東亜戦争末期、敵の本土上陸を阻止するために、先人たちは沖縄に向かって飛び立った。爆弾を積んだ飛行機で体当たりするために。特別攻撃隊、特攻隊である。沖縄に近い鹿児島・知覧に、特攻出撃地が置かれた。その地へ、1期生に続き2期生も卒業合宿で1泊2日を過ごした。今年は念願かなって中條高德学長と一緒に。さて、富屋旅館(食堂)といえば、特攻兵前夜に最後の食事をし、仲間と夜を過ごした場所である。その兵隊さんたちに関わってこられた鳥濱トメさんが後世に伝えられたエピソードは数々ある。戦争の良し悪しを言うものではなく、そのような事実があったことを我々日本人は知るために、この場所で今を過ごすことはとても貴重な体験であった。それに特攻に志願した人たちは皆、20歳そこそこの若者ばかり。社会に飛び立つ今、現在の若者・2期生たちは何を感じたのだろうか・・・。先人たちが命をかけて守ってくれた日本があり、今の平和がある。生かされている命の尊さ、これからの若者は何をすべきなのかを、それぞれが気づく2日間となった。合宿を終え、富屋旅館を発つ前、「私たちの志」を2期生全員で色紙に記し、今は亡きトメおばあちゃんの部屋にある観音像にお供えした。

朝、特攻出撃直前を感じる散策



←三角兵舎跡。
上空から敵に
見つからないよ
うに、木々に囲
まれた場所に
置かれた。

←特攻で飛び立つ直前、
最後の杯を受けた場所
であり、別れの場所
でもある。



←平和の鐘を鳴らし、
今の平和な日本に感
謝し手を合わせる。

富屋旅館の食事

→兵隊さんが食べられたものを現代風に
アレンジしたここでしか体感できない食事。

↓現女将・鳥濱初代さんの講話。トメおば
あちゃんの想いを今に伝えられる。



名物・卵かけご飯

1泊2日の貴重な体験を終えて、
いよいよ社会に飛び立つ。



おれたち
やったるで!

書籍【知覧道 ～大切なことは富屋旅館が教えてくれた】発売中